

## 日本歯周病学会 第108回 歯科衛生士教育講演会 報告

1. 研修会名：日本歯周病学会第108回歯科衛生士教育講演会（日本歯科衛生士会第5次生涯研修）
2. 主催：特定非営利活動法人 日本歯周病学会（歯科衛生士関連委員会）
3. 協力：一般社団法人 日本歯科衛生士会（山形県歯科衛生士会）
4. 日時：2024年10月20日（日）10:00～16:20
5. 場所：山形テルサ

### ① 対面講義

### ② 山形テルサ 3階 リハーサル室

所在地：山形市双葉町1丁目2-3

6. 演題：1) 第1部「これだけは押さえておこう！～歯周外科治療の基本知識と手技～」  
2) 第2部「歯周病学会認定歯科衛生士のお知らせ」  
第3部「歯科衛生士が知っておきたい咬合の基礎知識  
～口腔に加わる力の見方、その対応～」

7. 講師：1) 小田 茂（日本歯周病学会 歯科衛生士関連委員会 委員）  
2) 小林 明子（日本歯周病学会 歯科衛生士関連委員会 委員）

8. 研修単位：①、②両方に該当する場合は、それぞれの単位取得が可能

#### ①日本歯周病学会会員の場合

- ・認定歯科衛生士制度における申請時の教育研修単位（8単位）
- ・更新時の生涯研修単位（10単位）

#### ②日本歯科衛生士会会員、会員外の場合

- ・第5次生涯研修制度に基づく専門研修単位（歯周治療の基本技術）

IV. これだけは押さえておこう！～歯周外科治療の基本知識と手技～ 2単位

I. 歯科衛生士が知っておきたい咬合の基礎知識

～口腔に加わる力の見方、その対応～ 2単位

### 9. 教育講演会

受講者は、開催地の山形県、福島県、宮城県、東京都、計27名（内訳：歯科衛生士会のみ会員19名、歯周病学会会員・歯科衛生士会両方会員3名、歯周病学会のみ会員4名、会員外1名）であった。

はじめに、山形県歯科衛生士会の村越友子副会長より開会の辞、続いて山形県歯科医師会会長土門宏樹氏、山形県歯科衛生士会会長 佐藤奈美氏より挨拶があり、続いて小田委員より「これだけは押さえておこう！～歯周外科治療の基本知識と手技～」の講演が行われた。

第一部、これだけは押さえておこう！～歯周外科治療の基本知識と手技～ では、歯周治療の目的は歯周組織の健康および口腔機能を生涯維持することであるという中核のコンセプトから始まり、歯周治療の流れは、検査診断治療計画立案から始まり、歯周基本治療、歯周外科治療、咬合回復治療などを行い、SPT（Supportive Periodontal Therapy）・メインテナンスといった歯周治療の流れの説明がなされた。今回は、その中でも、歯周外科治療の基本知識と手技について押さえるべき点に焦点を絞った講義であった。



歯周外科治療の適応、歯周外科手術の目的、術式の分類、歯周外科手術のプロセス、クリニカルパス、歯周外科手術を行う際の注意点等多岐にわたる項目を分かりやすくまとめた講義であった。

#### (小田茂委員 講義風景)

昼食休憩後に、日本の歯科衛生士の就業状況、日本歯周病学会および日本歯科衛生士会への入会と認定歯科衛生士のエントリー方法について説明がなされた。

第二部「歯科衛生士が知っておきたい咬合の基礎知識 ～口腔に加わる力の見方、その対応～」では、健康日本21第3次目標であるライフコースアプローチに注目して生涯を通じた口腔のサポートについて提言をした後、う蝕、歯周病は日常生活の習慣習癖などの影響が大きく関係してくるため歯を残せば残すほどさらなる要因が浮上してくること、歯科衛生士には口腔に加わる力や変化また咬合の基礎知識が必要であること、咬合発育から加齢による変化、咬合性外傷など力の影響について、その見つけ方、臨床のヒントなどの講義がなされた。



#### (小林明子委員 講義風景)

2024/10/28 13:29 日本歯周病学会 歯科衛生士教育講演 B に関するアンケート (R6.10.20 開催)

<https://docs.google.com/forms/d/1BQVI7LDfdfiNjtNIBEwtIoSSaIVxyrQzpGiyy2ugXM/viewanalytics>  
[4/8](#)

#### 教育講演会を終えて

歯科衛生士会会員 27 名という少人数ではあったが、大変熱心に受講されていた。今回受講後アンケートや質問などのコメントで『日々の臨床に役立つ内容だった。モチベーションになった』、『臨床に実践的な内容であったと同時に、日々の診療での気づきに繋がった』との感想を聞くことができた。少人数の中にも歯周病学会の認定歯科衛生士を取得したいと考えている受講者もあり歯周病のスペシャリストとして活躍を希望する人が出てきていることを嬉しく思った。

また『子育て中なので参加できない仲間がいた。L ライブ配信やオンデマンドなどがあると助かる』というコメントを聞いた点は地方だけの要望ではないだろう。学術を臨床と融合させていくためには継続的な学びが必要である。今後は改めて教育講演の企画、提供のあり方を見直していく必要を感じた。